# カワサキの100タイトル

川崎市市制100周年記念

## ～100年後に残したい川崎ゆかりのイチ推し本100～

本を通じて、川崎市制100周年をきっかけに、何かを後世に残すことはできないだろうか
このような思いを持って、取組んだのが、「川崎ゆかりの作品『あなたのイチ推し本』大募集！！」です。
川崎にゆかりのある作家や著名人の作品、川崎を舞台にした作品、川崎の歴史や自然などを題材にした作品を
募集したところ、75タイトルの作品の応募がありました。
応募された作品に、オススメの一節や本にまつわるエピソードや思い出を添え、
さらに、職員のオススメを加えた、バラエティに富んだ100タイトルの
ブックリーフレットがここに誕生しました。
このブックリーフレットが、
これまでの川崎の足跡を振り返り、
未来の川崎に思いを馳せる、また、
川崎への郷土愛が高まる
アイテムの1つとして、
皆さんに見ていただければ、
幸いです。

川崎市
川崎市教育委員会

Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市
COLORS FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th
読書のまち かわさき
かわさき100th 図書館×市民館 PROJECT

## 川崎ゆかりの作家

### 彗星の住人
無限カノン1
島田雅彦／著
新潮社（新潮文庫）

小説家。1961（昭和36）年生まれ。神奈川県立川崎高等学校出身。
2014（平成26）年、市制90周年の際に、書き下ろし短編小説「南武すたいる」を発表。2004（平成16）年に読書普及講演会の講師として登壇。

みんなの声
「戦争も政治も陰謀も全て、恋と結びついているのです」
実在の人物と架空の人物、フィクションとノンフィクションが入り混じる。
燥々夫人とピンカートン大佐の子孫であるJB、蔵人、カヲルが織りなす壮大なスケールのラブストーリー。
美しい文章とジェットコースターに乗っているようなダイナミックな展開にページをめくる手が止まらなくなります！（網谷青泉）

### 月日の残像
山田太一／著
新潮社

脚本家。「岸辺のアルバム」「ふぞろいの林檎たち」など多くの名作テレビドラマを手がける。
1982（昭和57）年川崎市文化賞を受賞。2005（平成17）年から2期4年間、川崎市市民文化大使に就任。生前は高津区に在住。2023（令和5）年、89歳にて永眠。

みんなの声
「考えれば、私だって、どこへでも行けるはずなのだった。行かないのは、やはりこの町が好きなのだろうか。いろいろ屈折しながら、好きなんだと思う。」
何か所か溝口について、述べている部分がある。（夏異人）

### 香君（こうくん） 上下
上橋菜穂子／著
文藝春秋

1962（昭和37）年生まれ。
川村学園女子大学特任教授。
野間児童文芸賞、本屋大賞、国際アンデルセン賞作家賞などを受賞。
著書に「精霊の守り人」「獣の奏者」「鹿の王」など。

みんなの声
守り人シリーズ、獣の操者の上橋菜穂子さんの、香りに関する最新の研究からヒントを得た最新作！
「人並み外れた臭覚で、「香りの声」を聞くアイシャ。アイシャはオアレ稲を救えるか！ イッキ読み確実です！（tomika）

※「小学3年生のとき、東京都内から畑や沼の多かった中原区に引っ越しました。体が弱かった私を、緑豊かな環境で育てたいという親の意向でした。」と読売新聞オンラインに掲載されています。

### オオカミの護符
小倉美恵子／著
新潮社

作家・映画プロデューサー。1963（昭和38）年宮前区土橋生まれ。2008（平成20）年映画「オオカミの護符―里びとと山びととのあわいに」で同年「文化庁映画賞文化記録映画優秀賞」、「第17回地球環境映像祭アース・ビジョン賞」受賞。2017（平成29）年「川崎市文化賞」受賞。2015（平成27）年に読書普及講演会の講師として登壇。

みんなの声
1枚のオオカミの護符からの民俗学の探究（西尾有紀さん）

## 絵本・児童書❶

### こんとあき
林明子／さく
福音館書店

1945（昭和20）年、東京都生まれ。絵本作家。
1973（昭和48）年、「かがくのとも」の「かみひこうき」でデビュー。「はじめてのおつかい」「おでかけのまえに」「おふろだいすき」などの作品がある。

みんなの声
ぬいぐるみのこんとあきが、おばあちゃんの家に電車で旅するおはなし。結構ドキドキする場面もありますが、優しい絵柄で二人の友情が描かれます。大人になって読んでも、絵の中に林さんが仕掛けた遊び心がとてもうれしい作品です。（何の日）

※林明子原画展―絵本のひきだし 展覧会図録（朝日新聞社 2017年）の表を見ると、林さんが川崎市にお住まいであったことが分ります。

かこさとしさんの絵本

### からすのパンやさん
加古里子／作・絵
偕成社

みんなの声
娘が大好きな絵本で、何度もくり返し読みました。2才の頃、最初の数ページを暗記して、まるで読んでいるかのようにうれしそうにページをめくっていたのを思い出します。（ゆみパパ）

### だるまちゃんとうさぎちゃん
加古里子／作・絵
福音館書店

みんなの声
わたしがすきな本は、「だるまちゃんとうさぎちゃん」です。3さいのころにおばあちゃんがかってくれました。すきなところは18、19ページのおやつをたべているところです。あそびかたもいろいろのっています。ぜひよんでみてください。（土田瑠璃さん）

### だるまちゃんとてんぐちゃん
加古里子／作・絵
福音館書店

みんなの声
ニュースで幸区の公園に碑が立てられたと見ました。だるまちゃんシリーズ、パンやさんシリーズ、自然科学シリーズ、どれも楽しくて学びがあります。かわいいし。（小野福美さん）

### どうぐ
加古里子／文・絵
福音館書店

みんなの声
私が子供の頃読んでいた絵本で、今は私の子供たちも大好きな一冊です。今となっては懐かしい道具が最新の便利なものとして描かれていたり、道具は小さい道具の組み合わせでできていることを細かく描かれていたりとてもユニークです。加古里子さんの優しいタッチの絵も大好きです。（パンス佐智子さん）

## 絵本・児童書❷

山室 静
詩人、文芸評論家、翻訳家。
北欧文学・北欧神話についての数々の著作や、北欧の児童文学作家の翻訳書を多く残した。1974（昭和49）年に川崎市文化賞を受賞。

### たのしいムーミン一家 復刻版
トーベ・ヤンソン／作・絵　山室静／訳
講談社

みんなの声
ムーミンだけでなく様々な北欧文学を日本に紹介した山室静さんの翻訳作品。
いまだに続く日本でのムーミン人気に貢献しています。スナフキンやミイのイメージなども山室さんの訳から生まれてきているのかもしれません。（ニルス）

### ムーミン谷の冬
トーベヤンソン／作・絵
山室静／訳
講談社
（講談社青い鳥文庫）

みんなの声
今年は1964年にムーミンが日本で紹介されて60周年にあたります。そのムーミンを紹介したのは、麻生区に住んだ山室静さんです。
山室さんはムーミンシリーズだけでなく、アンデルセンやリンドグレーン、トーベ・ヤンソンなどを翻訳、紹介しています。（モラン）

### ロッタちゃんとじてんしゃ
リンドグレーン／さく
ヴィークランド／え
やまむろしずか／やく
偕成社

みんなの声
子どもたちが小さい時に、何度も繰り返し読みました。
ロッタは近く5歳の誕生日を迎えます。お兄ちゃんとお姉ちゃんが、自転車をスイスイ乗り回しているのを見て、ロッタも自転車がほしくてたまりません。ところが、パパにも「ロッタにはまだ早いよ」と言われてしまいます。そこでロッタは、お隣のベルイおばさんの物置から自転車をこっそり盗み出します。それからどうなったかは、この絵本を読めばわかりますよ。読んだ後、幸せな気持ちになって、いつまでも心に残ります。（山のやまちゃん）

### リリアン
山田太一／作
黒井健／絵
小学館

みんなの声
山田太一さんが絵本を残されていたとは！山田太一さんの子どもの頃の思い出をベースに物語は展開される。亡くなった友人の死を受け入れられない少年は、ある少女と出会う。それは、腹話術の人形だった。しかし、彼女との幻想的な時間は確実に手元にある。幻想的なストーリーと黒井健さんの絵が、山田太一さんの世界を広げていく。大人になることを腹話術師から語られるが、含みを持たされていて山田太一さんならではのメッセージを残してくれる。（ゆきちゃん）

## 詩　人

### 琉球諸嶋風物詩集
佐藤惣之助／著
海風社

川崎区出身。1930（昭和5）年に川崎市の委嘱を受け、「川崎小唄」「川崎音頭」を作詞。阪神タイガースの球団歌、通称「六甲颪」も作詞。1942（昭和17）年、51歳にて永眠。

みんなの声
1959年（昭和34）、惣之助の出身地である川崎市から、那覇市との友好と文化的交流親善を深めるため、惣之助の詩碑が贈られ、首里城跡に置かれた琉球大学構内に設置された。惣之助の十七回忌にあたる5月15日に盛大に除幕式が行われた。
碑は、同じ川崎市出身の陶芸家濱田庄司(はまだしょうじ)が、沖縄独特の赤瓦を織り込んだピンプン(衝立)型を作製し、琉球諸島風物詩集の「背筋」の一節「しづかさよ 空しさよ この首里の都の宵のいろを誰に見せやう 眺めさせやう」が書かれた陶板をはめ込んだものとなっている。（ラインバック）

まど・みちお
山口県周南市出身。「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」などの童謡詩人として知られる。
市内の幼稚園や学校の園歌や校歌を作詞するなど、川崎市ゆかりの詩人として、1976（昭和51）年に川崎市文化賞を受賞。2014（平成26）年、104歳にて永眠。
1994（平成6）年、日本人初の国際アンデルセン賞作家賞を受賞。

### まど・みちお詩集
まど・みちお／著
角川春樹事務所
（ハルキ文庫ほか）

みんなの声
「ぞうさん」「ふたあつ」など私が子供の時に、「やぎさん ゆうびん」「ねんせいに なったら」は我が子もと世代を超えて楽しんだ詩です。
懐かしい詩や楽しい詩がたくさんありますが、読み返すとまた違う感情や思いが湧きます。
いま私のお気に入りは、「喜んでるいるのだろう」です。
で 人間よ
もちろん きみも
喜んでるいるのであってくれますように！
自分がちょうど人間くらいに
人間にして貰えていることを
そして そのうえに
犬も雀もヘビもアリもタンポポもスミレも
そのほかのどんな生き物でもが
みんな ちょうどその生き物くらいに
その生き物にして貰えていることをまでも
存在することの奇跡に目を向け、自分が自分であることを喜び、この世に存在するあらゆるものとあらゆるいのちを慈しんだ詩人まど・みちお。（ダンデライオン）

### ネコとひなたぼっこ
まど・みちお／詩
柚木沙弥郎／絵
理論社

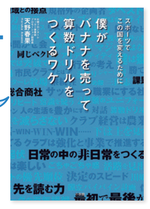
みんなの声
小学一年生の担任の先生がとても詩集が好きな先生でした。朝の時間に毎日一つの詩を紹介してくれていました。そのおかげで、詩が大好きになりました。（うたえもん）

## 川崎フロンターレ

川崎フロンターレ「365日まちクラブ」の作り方
### 愛されて、勝つ
原田大輔／著　小学館クリエイティブ

みんなの声
川崎市を本拠地とするプロサッカークラブ、川崎フロンターレの発足から2023年（実質2022年）までの出来事を扱った書籍です。
各時期やテーマごとに川崎フロンターレの内側で、外側で関わった人々のインタビュー、声を基にして活字に起こした貴重な記録にもなっています。
小さく、決して大きくは無かったクラブがどのような歩みや成長戦略を描き、ホームタウンである川崎市に浸透し、定着したのか。サッカーという競技で勝つ事が全てではなく、クラブが持続的に活動し成立し続ける為に、どのような人々から支持され、人々と協力すべきなのか。時に社会課題を解決する為の取り組みや、時に市内の他のスポーツチームの先行者として模範となる活動に取り組んだ事なども紹介されています。
2024年現在、川崎フロンターレは少なくない国内タイトルを獲得し、サッカー日本代表やオリンピック代表に所属中・かつて所属した選手を含めて輩出する等、国の外にも越えて活躍を見せています。（吉岡照夫さん）

スポーツでこの国を変えるために
### 僕がバナナを売って算数ドリルをつくるワケ
天野春果／著　小学館



みんなの声
「川崎フロンターレというプロサッカークラブをプロモーションや広報の立場から発展させ、川崎市を盛り上げること、それが僕の仕事だ。」（「はじめに」16ページ）
地域に大きな貢献をしているJリーグのクラブとして、10年連続で第1位（2010～2019）に輝いた「川崎フロンターレ」の、元プロモーション部長兼広報グループ長として、小学校の算数ドリルを作成するという前代未聞の事業を成し遂げ、その後さまざまな名物企画を立案、実行に移した著者の川崎の郷土愛があふれる作品としてオススメします。（たー坊）

### VISION
夢を叶える逆算思考
三笘薫／著　双葉社

【三笘選手のプロフィール】1997（平成9）年生まれ。川崎市立鷺沼小学校、有馬中学校出身。小学校時代からさぎぬまSCを経て、2020年川崎フロンターレに入団。同年Jリーグ・ベストイレブン賞を受賞。

みんなの声
三笘薫選手自身がプロサッカー選手として培ってきた経験に基づいた、具体的なメソッドが紹介されています。目標達成のための練習方法、メンタル強化法、時間管理術など、すぐに実践できる内容が書かれており、おすすめです。（せんた）

### ラストパス
引退を決断してからの5年間の記録
中村憲剛／著
KADOKAWA

【中村選手のプロフィール】1980（昭和55）年生まれ。2003（平成15）年～2021（令和3）年、川崎フロンターレに所属。2020（令和2）年に川崎市市民栄誉賞、川崎市スポーツ特別賞を受賞。

みんなの声
引退を決めてから様々な伏線を回収していくところ。（ケン）

## スポーツ雑誌・漫画

［完全保存版］中村憲剛　引退記念号
### サッカーマガジン　1月号増刊　1599号
ベースボール・マガジン社

みんなの声
優勝まであと一歩を繰り返していた時代の川崎フロンターレで、ワンチームマンとして18年間チームの発展に貢献した中村憲剛氏の、喜怒哀楽が詰まった記録集。
写真が豊富なので眺めるだけでも感慨深く楽しいですが、特に中村氏のインタビュー記事では彼の思想だけでなく「言語化する力」が伝わってきます。サッカーの魅力について「…両軍のゴールが1つずつあって、そこに入れ合うために一個のボールに対して大の大人がワーワーしている。90分間の中にたくさんのドラマがあって、その勝敗に心が震え、涙を流し、歓喜の渦ができるわけです。こんなにも心揺さぶられるスポーツをほかに知りません…（P15下二段目）（※この前の文脈も素敵なのですが長いので割愛）」と語っており、なんと的を得た表現なんだ！と彼の観察眼と表現力に脱帽してしまいます。
現在日本代表で活躍している、川崎フロンターレアカデミー出身の田中碧選手のインタビューもあり、中村氏を「憧れの存在（P30）」と語っており、田中選手の今の活躍に繋がっていることがうかがえます。
中村氏の功績を伝えるだけでなく、「スポーツのまち川崎」における川崎フロンターレの山あり谷ありな歴史を伝えるためにも、この本を次世代の方達にも遺し、オススメ！したいです。（むきむき）

みんなの声
本作品は週刊少年マガジンで1987年6号～1992年17号に連載されキャプテン翼など一部を除いてサッカー漫画熱がまだまだの当時の日本のサッカー人気の変換期に出てきた異色の高校サッカー部漫画です。
そのような時代背景の中で、アニメ化までされている人気作であったことは特筆すべき事案です。
主人公が通う高校の名前は「私立川崎高校」です。川崎市に実在する「市立川崎高校」の名前を同音漢字で置き換えた名前です。実はストライプ柄の色は違いますが市立川崎高校サッカー部のユニフォームデザインを川崎のロゴまで含めて漫画が模倣しています。
市立川崎高校サッカー部の対戦相手チームから漫画のユニフォームデザインをパクった？と聞かれて、漫画にパクられたんだよと苦笑しながら答えていたエピソードです。また、当時の校舎や学生服なども踏襲されていて、平成元年前後の川崎市を知る上でも貴重な描写となっています。（100 YEARS AFTER）

### オフサイド
塀内夏子／著
講談社（講談社漫画文庫）

漫画家。宮前区出身。
1983（昭和58）年週刊少年マガジンにて、「背負子と足音」でデビュー。以降、スポーツ漫画を中心に執筆。2003（平成15）年、川崎フロンターレを強力にサポートするためのポスター制作に協力するなど、川崎フロンターレとも縁が深い。

## 歌手・アーティスト・俳優

### カワサキ・キッド
東山紀之／著
朝日新聞出版

1966（昭和41）年生まれ。
幼少の頃に川崎区桜本で、その後中学校卒業まで幸区で過ごす。川崎市立古川小学校出身。1986（昭和61）年少年隊として歌手デビュー。その他ドラマや映画、舞台にも出演。

みんなの声
少年隊 東山紀之の自叙伝（仮面舞踏会）

### キズナ
松本利夫、USA、MAKIDAI／著
幻冬舎（幻冬舎文庫）

川崎市立子母口小学校、東橋中学校、神奈川県立麻生高等学校出身

みんなの声
EXILE MATSU こと松本利夫さんは高津区に生まれ、現在、川崎市市民文化大使として活躍中。ダンスとの出会いからやEXILE への思い、これからのことなど他の2人とともに語っています。（オドル）

### あきらめない―脳梗塞からの挑戦―
西城秀樹／著
二見書房

1972（昭和47）年に歌手デビュー。日本レコード大賞歌唱賞受賞。数多くのドラマ、映画、舞台に出演。2018（平成30）年、63歳で永眠。

みんなの声
「逃げないで試練に向き合ってこれた。一つの苦しみに耐え、乗り越えられた。そのことは間違いなく、ぼくの人生の思い出の一ページになった。」
生前、一時期宮前区に在住。大ヒット曲「YOUNG MAN」を等々力陸上競技場で行われた川崎市市制80周年記念試合のハーフタイムで熱唱したことも。
しかし、その前年の2003（平成15）年6月に、脳梗塞を発症。タフでエネルギッシュなイメージとは裏腹に、思うように歌えないことに落ち込み、もがき苦しみながらも、徐々にありのままの自分を受け入れようとする心情の変化をストレートな言葉で綴っています。人生、思うように上手くいかないことがあっても、「あきらめない」と語りかける言葉に説得力のある1冊です。（ヒデキ、カンゲキ！）

### 凡者（ぼんじゃ）の合奏
片岡健太／著
KADOKAWA

2013年にバンド結成。4人組バンドsumikaのボーカル&ギターで、総ての楽曲の作詞を担当。
2022（令和4）年、sumikaは、かわさきスペシャルサポーターに就任。

みんなの声
川崎出身のsumikaのボーカリスト。幼少期から現在までの生い立ち冬綴る中で、片岡さんの思い出の場所などが写真で紹介されています。sumikaファンは片岡さんと同じ場所に自分たちも行ってみたいと川崎に足を運び、ファン活を楽しんでいます。
市制100周年の音楽フェスにも出演が決まっている大注目アーティストの人間らしさを色々な世代の方に知ってもらいたいです。（みきぽん）

## 詩　人

### まど・みちお詩集
まど・みちお／著
角川春樹事務所
（ハルキ文庫ほか）



山口県周南市出身。「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」などの童謡詩人として知られる。
市内の幼稚園や学校の園歌や校歌を作詞するなど、川崎市ゆかりの詩人として、1976（昭和51）年に川崎市文化賞を受賞。2014（平成26）年、104歳にて永眠。
1994（平成6）年、日本人初の国際アンデルセン賞作家賞を受賞。

### ネコとひなたぼっこ
まど・みちお／詩
柚木沙弥郎／絵
理論社



みんなの声
小学一年生の担任の先生がとても詩集が好きな先生でした。朝の時間に毎日一つの詩を紹介してくれていました。そのおかげで、詩が大好きになりました。（うたえもん）

## 川崎フロンターレ

川崎フロンターレ「365日まちクラブ」の作り方
### 愛されて、勝つ
原田大輔／著　小学館クリエイティブ



みんなの声
川崎市を本拠地とするプロサッカークラブ、川崎フロンターレの発足から2023年（実質2022年）までの出来事を扱った書籍です。
各時期やテーマごとに川崎フロンターレの内側で、外側で関わった人々のインタビュー、声を基にして活字に起こした貴重な記録にもなっています。
小さく、決して大きくは無かったクラブがどのような歩みや成長戦略を描き、ホームタウンである川崎市に浸透し、定着したのか。サッカーという競技で勝つ事が全てではなく、クラブが持続的に活動し成立し続ける為に、どのような人々から支持され、人々と協力すべきなのか。時に社会課題を解決する為の取り組みや、時に市内の他のスポーツチームの先行者として模範となる活動に取り組んだ事なども紹介されています。
2024年現在、川崎フロンターレは少なくない国内タイトルを獲得し、サッカー日本代表やオリンピック代表に所属中・かつて所属した選手を含めて輩出する等、国の外にも越えて活躍を見せています。（吉岡照夫さん）

スポーツでこの国を変えるために
### 僕がバナナを売って算数ドリルをつくるワケ
天野春果／著　小学館



みんなの声
「川崎フロンターレというプロサッカークラブをプロモーションや広報の立場から発展させ、川崎市を盛り上げること、それが僕の仕事だ。」（「はじめに」16ページ）
地域に大きな貢献をしているJリーグのクラブとして、10年連続で第1位（2010～2019）に輝いた「川崎フロンターレ」の、元プロモーション部長兼広報グループ長として、小学校の算数ドリルを作成するという前代未聞の事業を成し遂げ、その後さまざまな名物企画を立案、実行に移した著者の川崎の郷土愛があふれる作品としてオススメします。（たー坊）

### VISION
夢を叶える逆算思考
三笘薫／著　双葉社



【三笘選手のプロフィール】1997（平成9）年生まれ。川崎市立鷺沼小学校、有馬中学校出身。小学校時代からさぎぬまSCを経て、2020年川崎フロンターレに入団。同年Jリーグ・ベストイレブン賞を受賞。

みんなの声
三笘薫選手自身がプロサッカー選手として培ってきた経験に基づいた、具体的なメソッドが紹介されています。目標達成のための練習方法、メンタル強化法、時間管理術など、すぐに実践できる内容が書かれており、おすすめです。（せんた）

### ラストパス
引退を決断してからの5年間の記録
中村憲剛／著
KADOKAWA



【中村選手のプロフィール】1980（昭和55）年生まれ。2003（平成15）年～2021（令和3）年、川崎フロンターレに所属。2020（令和2）年に川崎市市民栄誉賞、川崎市スポーツ特別賞を受賞。

みんなの声
引退を決めてから様々な伏線を回収していくところ。（ケン）

## スポーツ雑誌・漫画

［完全保存版］中村憲剛　引退記念号
### サッカーマガジン　1月号増刊　1599号
ベースボール・マガジン社



みんなの声
優勝まであと一歩を繰り返していた時代の川崎フロンターレで、ワンチームマンとして18年間チームの発展に貢献した中村憲剛氏の、喜怒哀楽が詰まった記録集。
写真が豊富なので眺めるだけでも感慨深く楽しいですが、特に中村氏のインタビュー記事では彼の思想だけでなく「言語化する力」が伝わってきます。サッカーの魅力について「…両軍のゴールが1つずつあって、そこに入れ合うために一個のボールに対して大の大人がワーワーしている。90分間の中にたくさんのドラマがあって、その勝敗に心が震え、涙を流し、歓喜の渦ができるわけです。こんなにも心揺さぶられるスポーツをほかに知りません…（P15下二段目）（※この前の文脈も素敵なのですが長いので割愛）」と語っており、なんと的を得た表現なんだ！と彼の観察眼と表現力に脱帽してしまいます。
現在日本代表で活躍している、川崎フロンターレアカデミー出身の田中碧選手のインタビューもあり、中村氏を「憧れの存在（P30）」と語っており、田中選手の今の活躍に繋がっていることがうかがえます。
中村氏の功績を伝えるだけでなく、「スポーツのまち川崎」における川崎フロンターレの山あり谷ありな歴史を伝えるためにも、この本を次世代の方達にも遺し、オススメ！したいです。（むきむき）

みんなの声
本作品は週刊少年マガジンで1987年6号～1992年17号に連載されキャプテン翼など一部を除いてサッカー漫画熱がまだまだの当時の日本のサッカー人気の変換期に出てきた異色の高校サッカー部漫画です。
そのような時代背景の中で、アニメ化までされている人気作であったことは特筆すべき事案です。
主人公が通う高校の名前は「私立川崎高校」です。川崎市に実在する「市立川崎高校」の名前を同音漢字で置き換えた名前です。実はストライプ柄の色は違いますが市立川崎高校サッカー部のユニフォームデザインを川崎のロゴまで含めて漫画が模倣しています。
市立川崎高校サッカー部の対戦相手チームから漫画のユニフォームデザインをパクった？と聞かれて、漫画にパクられたんだよと苦笑しながら答えていたエピソードです。また、当時の校舎や学生服なども踏襲されていて、平成元年前後の川崎市を知る上でも貴重な描写となっています。（100 YEARS AFTER）

### オフサイド
塀内夏子／著
講談社（講談社漫画文庫）



漫画家。宮前区出身。
1983（昭和58）年週刊少年マガジンにて、「背負子と足音」でデビュー。以降、スポーツ漫画を中心に執筆。2003（平成15）年、川崎フロンターレを強力にサポートするためのポスター制作に協力するなど、川崎フロンターレとも縁が深い。



## 歌手・アーティスト・俳優

### カワサキ・キッド
東山紀之／著
朝日新聞出版



1966（昭和41）年生まれ。
幼少の頃に川崎区桜本で、その後中学校卒業まで幸区で過ごす。川崎市立古川小学校出身。1986（昭和61）年少年隊として歌手デビュー。その他ドラマや映画、舞台にも出演。

みんなの声
少年隊 東山紀之の自叙伝（仮面舞踏会）

### キズナ
松本利夫、USA、MAKIDAI／著
幻冬舎（幻冬舎文庫）



川崎市立子母口小学校、東橋中学校、神奈川県立麻生高等学校出身

みんなの声
EXILE MATSU こと松本利夫さんは高津区に生まれ、現在、川崎市市民文化大使として活躍中。ダンスとの出会いからやEXILE への思い、これからのことなど他の2人とともに語っています。（オドル）

### あきらめない―脳梗塞からの挑戦―
西城秀樹／著
二見書房



1972（昭和47）年に歌手デビュー。日本レコード大賞歌唱賞受賞。数多くのドラマ、映画、舞台に出演。2018（平成30）年、63歳で永眠。

みんなの声
「逃げないで試練に向き合ってこれた。一つの苦しみに耐え、乗り越えられた。そのことは間違いなく、ぼくの人生の思い出の一ページになった。」
生前、一時期宮前区に在住。大ヒット曲「YOUNG MAN」を等々力陸上競技場で行われた川崎市市制80周年記念試合のハーフタイムで熱唱したことも。
しかし、その前年の2003（平成15）年6月に、脳梗塞を発症。タフでエネルギッシュなイメージとは裏腹に、思うように歌えないことに落ち込み、もがき苦しみながらも、徐々にありのままの自分を受け入れようとする心情の変化をストレートな言葉で綴っています。人生、思うように上手くいかないことがあっても、「あきらめない」と語りかける言葉に説得力のある1冊です。（ヒデキ、カンゲキ！）

### 凡者（ぼんじゃ）の合奏
片岡健太／著
KADOKAWA

2013年にバンド結成。4人組バンドsumikaのボーカル&ギターで、総ての楽曲の作詞を担当。
2022（令和4）年、sumikaは、かわさきスペシャルサポーターに就任。

みんなの声
川崎出身のsumikaのボーカリスト。幼少期から現在までの生い立ち冬綴る中で、片岡さんの思い出の場所などが写真で紹介されています。sumikaファンは片岡さんと同じ場所に自分たちも行ってみたいと川崎に足を運び、ファン活を楽しんでいます。
市制100周年の音楽フェスにも出演が決まっている大注目アーティストの人間らしさを色々な世代の方に知ってもらいたいです。（みきぽん）



## 川崎ゆかりの人物❶

### 昭和・メモリアル与勇輝展
与勇輝／著
本庄俊男／監修　武田正彦／写真
彩鳳堂書店

1937(昭和12)年生まれ。中原区出身。人形作家。2007（平成19）年には、ニューズウィーク日本版で「世界が尊敬する日本人100」に選ばれる。2008（平成20）年、川崎市文化賞、2021（令和3）年に川崎市名誉文化大賞を受賞。

みんなの声
中原図書館の入り口に飾られているお人形の作家さんの写真集です。
貸出OKの本だった事もありすぐに借りて家でじっくりと見ましたが、裏に本人直筆のサインと日付があり驚きました。作品の素晴らしさにも人柄にも惹かれました。読めるだけで楽しめますので100年後に残したいのはもちろん是非一度今すぐに見てほしい本です。（匿名希望）

### リーチ先生
原田マハ／著
集英社



※濱田庄司：高津区生まれ。陶芸家。1920（大正9）年に渡英し、ロンドンで個展を開催。陶磁器、栃木県益子で陶芸に励む。文化勲章を受賞し、初の人間国宝にも選ばれる。1976（昭和51）年に川崎市文化賞受賞。

みんなの声
イギリス人の陶芸家・画家・デザイナーであるバーナード・リーチは日本の民芸運動にも深くかかわった人物。描かれる彼の半生の中で、川崎ゆかりのある濱田庄司も主要な人物として描かれている。（セントアイヴス）

### 小澤征爾、兄弟と語る
音楽、人間、ほんとうのこと
小澤 俊夫・小澤 征爾・小澤 幹雄／著
岩波書店



小澤俊夫氏：筑波大学名誉教授で昔話研究家。1998（平成10）年、多摩区に「小澤昔ばなし研究所」を設立。息子はミュージシャンの小沢健二氏。弟は世界的指揮者の小澤征爾氏。1950年代に、小澤家は今の幸区に在住していたことも。弟の小澤幹雄氏は、俳優、エッセイスト。

みんなの声
川崎に触れている部分は少ないですが、小澤家のエピソードの数々が生き生きと伝わってきます。（マエストロ）

### ぷらべん
88歳の星空案内人 河原郁夫
冨岡一成／著
旬報社



※1997(平成9)年から、川崎市青少年科学館(現在のかわさき宙と緑の科学館)で星空解説を続けてきた。あずからをプラネタリウム弁士、「ぷらべん」と称し、その人生はNHKをはじめ多くのメディアでも取り上げられた。2016(平成28)年、川崎市文化賞を受賞。2021（令和3）年、90歳にて永眠。

みんなの声
河原郁夫先生がご存命の頃、毎月、星空ゆうゆう散歩という、生田緑地のプラネタリウム上映に通っていました。優しい語り口と、先生らではの選曲がとても素敵で、毎月楽しみでした。先生の事をもっと知りたい、と思って読んだ本が、ぷらべんです。
激動の時代、星を大好きな一人の少年が、星空案内人になるまでを、読みやすく物語にしています。小さなお子様から、大人まで、お勧め出来る一冊です。（塩豆大福）

## 川崎ゆかりの人物❷

岡本太郎
1911（明治44）年、母・かの子の実家のある現在の高津区二子に生まれる。1992（平成4）年、川崎市名誉市民に選ばれる。1996（平成8）年、84歳にて永眠。1999（平成11）年に川崎市岡本太郎美術館が開館した。

### 自分の中に毒を持て
あなたは"常識人間"を捨てられるか
岡本太郎／著　青春出版社（青春文庫）ほか



みんなの声
岡本太郎のメッセージに勇気づけられる。（ガア公）

### 明日の神話―1967-2023 岡本太郎はなにをのこしたのか
平野暁臣／編著　興陽館



みんなの声
渋谷に岡本太郎の巨大な壁画があるのは知っていましたが、痛みが進み修復のためにクラウドファンディングでお金を集め、修復作業を終えたばかりだということをネットで知り、興味がわいたのでこの本を読みました。そもそもメキシコから日本へ巨大壁画を移動したというのがすごいです。屋内に展示されていても今後も定期的に修復は必要で、岡本太郎の作品は今後も残してほしいと私も思うので、次回はお気持ちだけでも募金したいです。
私は地元民で岡本太郎は好きです。この本を読んだあとに、渋谷の壁画をあらためて見に行きました。とにかく大きさにびっくり！じっくり見たのは初めてかもしれません。そのあと、青山にある岡本太郎記念館にも行きました。受付の方に本を読みましたと伝えると喜んでくださったのが印象的でした。（s）

### ウルトラマンの東京
実相寺昭雄／著
筑摩書房



筑摩書房映画監督、演出家、脚本家、小説家。東京藝術大学名誉教授。TBS入社後、円谷プロに出向。「ウルトラマン」などの特撮作品を監督。映画「無常」（ATG・実相寺プロ）でロカルノ国際映画賞グランプリを受賞（1970年）。映像分野を中心に舞台演出や文筆など幅広く活躍した。

みんなの声
ウルトラマンやウルトラセブンなど特撮番組の監督をした映画監督実相寺昭雄さんが当時のロケ地の一つでもあった川崎市内のことについて述べています。また、実相寺昭雄さんは麻生区に住んでおられましたので、亡くなった後、多くの資料が川崎市に寄贈されています。（マイアストラ）

### かこさとしと紙芝居
創作の原点
かこさとし・鈴木万里／